

## 第2回平塚市社会教育委員会会議要旨

日 時	令和4年7月26日（火）15時00分～17時00分
会 場	平塚市役所410会議室
出席委員	井手委員、上間委員、大和田委員、鈴木委員、丸島委員、小巻委員、 畠中委員、江水委員、飯田委員、伊東委員、河野委員
欠席委員	なし
事務局	平井社会教育部長、田中社会教育課長、西山中央公民館長 坂田課長代理、吉水主事補
傍聴者	なし

### 会議要旨

---

#### 1. 議長あいさつ

新型コロナウイルス感染症も一時落ち着き、事業を再開できた一部の地域もあったが、再拡大により実施できずに心配な状況だが、前期も検討してきたコロナ禍での地域事業実施などを踏まえ、今期のテーマ設定について、皆さんから活発な意見をいただきたい。

#### 2. 議事

##### (1) 神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について

###### ①総会（6月24日）について

議長から総会について説明した。

###### ②研修会（8月29日）について

事務局から8月29日（月）に開催予定の県社教連研修会の案内をした。

##### (2) 協議テーマについて

###### ○議長

今期の社会教育委員会議で話し合うテーマを引き続き検討していきたい。前回会議の中では、「子どもの居場所」について、子どもの孤独などの話題が出ていた。社会教育の立場で、子どもが参加する地域行事・事業なども子どもの居場所と捉え、コロナ禍でなかなか事業実施できない状況でも、地域はどのように判断し動いたのかを記録としてしっかり残しておくことが大切で、今後同じようなことが起こった時の備えにもなるのではないかと。行政ではなく、地域でしか拾えない事例を集めることもこの会議の役割の一つ。この一年は、皆さんの周りで起きているさまざまな情報を集め、事例を話し合っていきたい。その中で行政に提案できることがあればまとめていきたいと考えている。

また、先日「子どもの居場所」について、子ども食堂の場として、公民館を活用できな

いか、議会質問があり、対応について地域情報誌に掲載されていたが、詳細を教えてください。

#### ○事務局

子ども食堂の主管部は健康こども部になるが、公民館利用の一般的なルールは、公民館利用基準に基づき、グループ登録する際に利用者名簿を提出してもらっている。子ども食堂を公民館で行う場合も、予め利用者を登録し、公民館利用基準に照らして利用することは可能。ただし一般的な子ども食堂のように、不特定多数の人を対象に実施することは想定していない。各地域とも様々な課題について利用があり、実際に金目公民館では寺小屋で学習支援を行う中で、手作りで料理も提供している。

#### ○副議長

金目地区の事例を見ても、子ども食堂があれば、食べることに困っている子どもたちにとり、ありがたい取組になると思う。1小学校区に1つあるとよいと思うが、現実的には難しいという話を聞いた。

#### ○議長

子ども食堂は行政主体ではなく、基本的には地域団体が人、場所を確保して運営していくものだが、場所がない場合に行政でできるだけ協力してもらえればと思う。

それではコロナの状況を踏まえて、学校、地域の取組を教えてください。

#### ○委員

夏休み前まではある程度行事を実施することができた。授業参観、公民館の七夕飾り、PTA、地域の防犯見回り活動を行った。

#### ○委員

横内地区では毎週月曜日 17時半～19時に子ども食堂をやっている。様子を見に行った時には中学生2人という状況だった。食事をしている際にも、大人から声を掛けられたり、普段の出来事などを話す様子がよいと感じた。毎回実施できる場所を探すことが大変なようで、活動開始から3回変わり、今のところで2年間活動しているということだった。朝採れた夏野菜やブルーベリーを提供してくれる人もいて、季節感も味わうことができている。

江陽地区では、子ども食堂は朝7時30分から実施していた。地区により子どもたちのニーズ等がそれぞれあるので時間帯が違うと思う。

横内地区の話に戻るが、横内公民館で横内地区教育力ネットワーク協議会が横内サンサンカフェを開催している。毎月1回水曜日午後4時15分から5時15分の1時間、子ど

もたちにジュースを振舞うので、子ども達が公民館にたくさん集まり、「ごちそうさまでした」と気持ちいい挨拶をしながらまた遊びに行くという、子ども達には公民館が楽しい、大人にとっても子どもの様子がわかる、関わりが持てる場所になっている。小学生だけでなく中学生の参加も可能。9月から開催される予定。

横内中学校と地域のつながりでは、青少年指導員が高校生になったOBに、高校の様子を細かくインタビューして聞き取ったものを紙面にまとめて、横内中学校で紹介した。

コロナ前は高校生を中学校に招いて、高校生活の様子を話していた。青少年指導員が作った伝統が続いている。

また、横内マイタウンスクールという地域が主体となって学校で連携して子どもを育む仕組みもあり、工夫していろいろなことに取り組んでいる活発な地域だ。

子ども食堂などでトラブル等があった時に、先生も来てくれるといいんだよなっていう声があったが、地域が主体となって子どもを育て運営されているところなので、連携は必要だが、教員が収めるというのはどうしたものかと思っている。ただトラブル時の対処方法には困っているようなので、そのノウハウなど共有できればと思う。

#### ○委員

コロナ感染症が一向に収まる気配が見えない中、金田地区レクリエーション大会が早々に中止が決まり残念。地域における一大イベントで、お年寄りから子どもまで楽しみにしていた。盆踊りも中止。どうしても行事が少なくなり、子どもと触れ合う機会もない。金田小学校の評議員もまだ会議が開かれていない。小学校も中学校も少し前までは行事が元に戻った印象があったが、感染が急増している中だが、秋には運動会等が始まってくるので、少し収まって欲しい。感染者がたくさんいる状況では行政も学校も、やりましようとはなかなか言えないと思うが、子どもたちの思い出づくりでは、何かしらの形でやっていただければいいなというふうに思う。

他の地域のPTA活動は小耳に挟む程度だが、昨年以上にやってるようだ。

#### ○議長

地域の行事もなかなかできていない状況だと思うが、自治会含めた地域活動状況を教えて欲しい。

#### ○委員

中原地区では7月3日に渋田川フェスタという、参加者が子どもだけの催しを開催し、参加者300人想定のところ600人が参加した。企画など主体で取り組んだのは中原自治連合会。内容はヨーヨーやドローンを自ら操縦する等。花火大会も行ったが、鑑賞する会場を設けずに、各自宅で観てもらおうなど、面白い企画だったので継続するのでは。

## ○委員

子ども食堂について公民館を活用する場合は、グループ登録が原則の上、地域住民が主体である必要があり、過半数いないと登録できない地域もある。私の地区は子どもの数が少なく、貧困家庭の子どもも見当たらないため、子ども食堂をやりたいというグループはなかなかいない。

コロナ感染前後の子どもの公民館事業について、コロナ感染が拡大する前には参加人数は結構いたが、夏休み期間の児童生徒地域参加事業（5事業）への参加者は激減した。

例年だと各事業への参加希望者は20～30人で抽選が多いが、宇宙飛行士試験の体験をする内容のものだけ抽選になった。

地域で子どもを育てるといって社会教育の本筋からよいと思ったものが、「まちぐるみ大清掃」に子どもたちも参加させるというもの。今までは子どもは1週間前にゴミ拾いをするなど別々に参加していた。既に参加している地域もたくさんあると思うが、直前に吉沢小学校のPTAの方から話があり、刈払機を使う町内会などもあって危険も伴うなど事情が異なるため、各町内会に判断を委ねた結果、約半分の町内会で子ども達が参加した。

自分たちでやったほうが早いですが、子どもを育てる観点と、大人と一緒にやる雰囲気を作ることが必要。

もう少し早く話があれば、全ての町内会で参加できるように方策を考えられたので惜しい。それに関連してお祭りについて、子ども神輿につける白い紙は大人が作っているが、準備段階から子どもと一緒に呼んでやり方を教えることで、子どもと大人・地域の繋がりができると思う。他のイベントでも準備段階から子どもを引き入れ、企画段階から一緒に考えることが理想だと思うが、実施段階からでもできるだけ参加してほしい。そのためには自治会の呼びかけだけではなかなか浸透しないので、学校に協力してもらったり、学校と自治体等が連携するなりして、いかに子どもたちを地域社会の中に入れていくかを考える必要があると痛感している。

## ○議長

大野中学校区では中学生派遣ボランティアがある。イベントがある時に、地域団体が運営側として学校に参加を要請して、中学生を派遣している。子どもたちがそれぞれの行事に参加することで、経験を重ねるとともに、地域の大人と子どもの顔の見える関係を築くことができる。地域の人もお手伝いに呼ぶだけでなく、子ども達を育てる観点を持ってやっている。

## ○委員

金田地区にも同じような中学生ボランティアがあり、昨年小学校の運動会で、自転車の整理や玉入れ競争のかごを持ったりして、まさに運営スタッフとして参加することが増えている。

○議長

教育力ネットでも、中学生を地域行事にスタッフとして参加する地域が増えている。昨年はコロナ禍の中で参加する中学生が逆に増えているようで、ほかの活動が出来なくなっている状況の中でも、何かやりたい気持ちがある子が多いようで、そういうものが用意されてると手を上げやすくなる。

○委員

子どもとの関わり方で感じることは、大人はある程度の社会経験もあり、どうしても子どもに教えてあげているような気持ちになってしまうが、自分が学んでいることもあるので、子どもから教えてもらう意識を持って接することが大切で、そのような気持ちを持っていればよりよい関係が築ける。

○議長

上から目線ではなく、子どもから教えてもらうこともたくさんある。顔も見える関係になり、子どもから声をかけてもらえると嬉しい。地域で子どもと顔を合わせる機会が多くあると、子どもも面識があるので気を許して挨拶してくれるが、機会がないと、挨拶しても不審に思われなかと心配になり、声をかけづらくなる。挨拶を交わすことで、お互いに成長できたり、気持ちが和らいだりもするので、できるだけ接触できる場所、メンバーが増えるといいと思う。

○委員

伊勢原でお祭りをやっていたが、入れ替え制で多くの人が列に並んで参加していた。無理をしてはいけないが、平塚でも地域で子どもが参加できるイベントが多くあればと思っている。

○委員

港地区は体育館でボッチャをやった。パラリンピックで大分メジャーな感じになったと思うが、子どもたちを地区で二部制に分けて行った。自分たちが試合をやっていないときは、どうやって時間をつぶそうかなみたいな感じがあると思うが、ほかの子が試合をしている時も真剣に見ていて、自分だったら、ここをこう攻めて、とか話しかけたりして子どもたちが熱心に参加してくれた。先ほども話が出ていたように、子どもたちは行事に飢えているというように感じた。平塚の七夕まつりは、飲食の出店がない形で行われたが、地元の神社のお祭りでは結構出ていてびっくりした。出店があると子どもたちは楽しそうにしている。

○議長

2年間自粛していたので、行事をやらないことに慣れてしまっているような状況があるように思う。行事をやりたいっていう気持ちもある一方、何か面倒くさいから、状況も落ち着いてないから、それを言い訳に止めてしまおうという気持ちもあるかもしれない。

結構今までの流れで、やっているような行事は無理してやって何か批判されるならいっそのこと止めてしまおうという気持ちになってしまう感じか。

どちらが良い悪いっていう話ではなく、慎重な人ともうここまで我慢したんだから、やりたいって人のせめぎ合いもあると思うが、ただ1人でやることではないので難しい。大学や学生の状況はいかがか。

○委員

大学の方も、本当に7月の第3週頃までは順調にやってたが、先週から感染拡大があり、基本的には対面は難しいという状況になってしまった。ただ残っていたのは試験だけだったので、それはそれで救われた。

ただやはり今の大学3年生は1年、2年とコロナで対面授業をあまりできていない。私の授業で博物館実習の中で博物館の見学をするが、金目のエコミュージアムを研究した時に、住民の方を巻き込んだ活動がこれだけあるということで、コロナ禍で全然対面ができなかった反動もあって、ものすごく外での活動に感動していた。それを踏まえて、ちょうど今年4年生で、卒業論文、卒業制作に取り組むデザイン学科の学生が、参加されてる方の聞き取り調査をすることで、なぜ地域の皆さんは金目のエコミュージアム活動に率先して活動をして、なぜそういったものを残そうとするのかということ、調査しようという形で大学の学びと生涯学習、社会教育の学びっていうものの結実としてそういった活動が出てきたという例があった。

逆にコロナがあることで、地域への関心ですとか、自分が今ここにいる、至るまでのプロセスの中でどういうふうに人々が関わってきたのかという、内省する機会が多くあったようで、そこにどれだけ地域からの影響力があったのか、自分の人格を築き上げるために、地域との関わりですごい力があったんだっていうことを認識してる学生は多い。

そういったところに社会教育の活動が加わると、言語に落とし込んでなかったものが、学んだことによって言語化されて、今すごくどんどん出てきているような状況が出てるので、このコロナっていうのは、社会教育という方向性を目指そうとしてみれば、「生涯学習だとか社会教育って大事だよ」って思えるような機会になったという実感を持っている。

先ほど話しのあった子どもが参加するまちづくり大清掃は、もっといろいろな展開ができるなと思って聞かせてもらった。

やっぱりごみがあることを、子どもたちと一緒に協働する作業をしていくと、ごみがまとまってあるところとそうでもないところがあると思う。地図上に子どもたちでマッピングし

ていって、なぜそこだけごみが多いのかを考えるきっかけを作っていくと、ごみを出す大人の行動じゃないんですけれども、人々の行動は何でそこにごみを落とすんだらう。このようにごみを落とさないようにするためにはどうしたらいいんだらうっていう具合に、地域課題を解決する可能性がすごくあり、発展性があるなと思った。

例えば、小学校や中学校の課外活動と合わせて独自の展開ができるといいのではと思う。あと、小・中学校の学芸会等の学びの成果を発表する機会に、この中で何があったのかを子どもたちの記録として残していくと同時に、公民館等でもその学校でやってることを受けて、親御さんの立場からコロナ禍においてどういったことを皆さんお考えなんだらうか、そういったものを公民館と学校のタイアップで展示会みたいなものを実施できると、地域全体の学びとして巻き込むことができるのかなと思う。

大阪府の吹田市では、東京ナンバーの車が来ると「さっさと帰れ東京もん」の貼り紙をぺたっと貼られることがあり、それを写真で撮って、博物館で展示した。

また、うどん屋でも「こんな時に営業するなんて、このどアホ」というような貼り紙の写真を撮って博物館に負の遺産として展示したという例があった。住んでいる人たちの目線で自分たちの地域でこういったことがあったということを展開していくような活動をしていくとまさしく社会教育としての、この時期どういったことをやってたかっていうようなものの一つの総括みたいなものができるのかなと思う。ちょっと現実的かどうか、学校は大変忙しいので、難しい部分があるかと思うが、でもそうすることで地域全体のコロナの振り返りみたいな、また新たな未来に向かって進めることができるのかなと感じた。

#### ○議長

教育力ネットのある地区では、地図に交通事故のあった危険箇所をマッピングして、その情報を共有していると聞いた。

そうすると、なぜここは事故が多いのかという気づきになったりとか、ここはこういうところだから気をつけようとか、或いはもしそこが通学路であれば、通学路を変更するっていう考えにもなってくるかもしれない。このような活動も、学校教育と一緒にやっていかないとなかなか難しいかなとは思う。

#### ○委員

今、港地区は不審者情報のあった場所などをマッピングしており、地区の学校や公民館だとか主だったところに配布をしている。

コロナ禍で不審者情報が減ったので、ネットの方でやっている「こどもサポート看板」の箇所を地図に落とし込んでいく作業をした。それを学校や公民館、子どもの家に貼っていただくようにした。

子どもたちは黄色い看板を見るけど、どこにあるかを以外と知らない。私たちもここにもあるんだなということを確認できた。

○議長

不審者情報はどこから得るのか。

○委員

地域内の学校へアンケートを取り、それを取りまとめ、港ネットで地図に落とし込んでいく。

○委員

小学校では不審者に対する指導は低学年からとても丁寧に行っている。

その成果だと思うが、例えば朝に知らない人に写真を撮られたとか、ちょっと声を掛けられたと訴えをしてくる子がいるので、私も実際その時間に現場に、次の日に見に行ったら、見守りの団体の方が、広報に載せるために写真を撮っていたということだった、事前に伝えなくて申し訳なかったということがあった。

あとは、もう子どもたちを大事に思ってくださいの方が、ためになるような話をしてくださったところ、「知らない方に話し掛けられた。」と言われたことがある。

ただ、子どもたちは、挨拶してくれる大人の顔はよく覚えていている。岡崎地区では朝にとても多くの方に見守りをさせていただいている。

○副議長

地域の人から声を掛けられるときに、子どもたちはその人が安全な人なのかそうではない人なのかわからない。

もし声掛けをした時には、皆さんはぜひ自分はどこの誰だと名乗っていただきたい。

子どものことばかり大人が聞くのではなく、自分のこともちょっと具体的に話してあげられるかが、大人の技量なのかなと思う。

○委員

金目のエコミュージアムの方はベストを着用しているので安心感がある。

○副議長

ユニフォームとか腕章は安心があると思う。

○副議長

私は旭北の纏地区であるが、自治会で6月に防災訓練をやった。大体その時期、子ども大会をやっているが、それができないので、防災訓練という形で今年に行った。

参加者のアンケート結果を見て感じたことが、参加者の年代は60才以上が60～70%、10



代は10%ぐらい。参加形態も1人で参加が多く、家族での参加は20%。

防災訓練に参加して「満足だった」と「大体満足だった」という方は59%であった。場所は松延小学校の校庭で、内容的には防災クラブの平塚パワーズさんの話や外で消火器の訓練を実際体験して、子どもたちは楽しんでいただけたようだった。

この防災訓練は自治会の回覧板で周知したようで、学校の先生が詳細を知らなかったようだ。一つの小学校区に自治会は二つくらい入っているのだから、なかなかそういうところが地区によって難しいなと感じた。

例えば、横内地区では1小1中で、小学校の隣には公民館があり、その横に子どもの家がありコンパクトにまとまっている。地域によって、広さも違うし、自治会の数も違うし、学校の数も違う。

金旭中学校は教育力ネットが金旭ネットになるが、金田小も入っており、入り組んでいる。そういう中で、何が地域としてできるのかっていったときに、どこを焦点に当ててやっていくのがベストなのかと見直すと、私はそれをすごく、課題だなと思った。

旭北地区の子どもたちに対して、どんなことができるのか、社会教育としてどういうことが大事なのかっていうことを考えることも大事だが、実際にそれを活動の場面を見た時には、もっと小規模な単位での活動が良いのかなと思う。その辺が、難しいところだなと感じている。

#### ○委員

子どもたちへの連絡の手段がすごく取りにくくなっていると感じる。

例えばお祭りで太鼓をたたき子どもを募りたい時、今までは育成会があれば該当の地区の子に回覧ができたが、育成会が少なくなっているのだからなかなか難しい状況。

私の住む金田地区の入野というところは、育成会が残ってるからよいが、育成会のない寺田縄は子ども集めが大変だろうと思う。

金田地区では、8月24日に金田公民館で小学校と長寿会のボッチャ大会を合同で開催する予定。ニュースポーツ大会の種目をトリムバレーからボッチャに切り替えようと考えている。

#### ○事務局

体育振興会の協力を得て、6月の頭に、ひらつかアリーナでトリムバレー大会を無事に開催できた。スポーツ課でもボッチャについては、体育振興会への貸出用の用具を揃えたり、力を入れている。

#### ○委員

子どもの親世代をイベント等で集めるのが難しいと感じる。

「親子〇〇」など冠をつけて集めるなどいろいろ試行錯誤が必要かもしれない。

○議長

地域で何かやりたいって言った時に、指導者を派遣してもらえるのか。

○事務局

スポーツ課の職員が講師となって派遣することをやっている。幅広い世代でできるようなスポーツを広めていきたい。

○副議長

お祭り、地区レク、運動会などいろいろなことにみんなで参加することが今までのスタイルだったかもしれないが、これからは大勢を集める機会を作るより、最高20人くらいで、単発でやれるようなものだとよいのかもしれない。

○副議長

私は民生委員をしているので、どちらかというところ、高齢者の活動に関わることが多いが、福祉村の〇〇サロンなど高齢者の居場所やイベント等はびっくりするくらい多いと感じた。それに対して、子どもたちの行く場は本当はないと思う。

○副議長

平日に地域に開かれた子ども向けの場があってもいいと思う。

○副議長

子どもの活動というと大人が用意するから来てくださいというものが、年に何回かあるという感じ。そういったものではなく準備段階から子どもたちが参加して、一緒に作り上げるようなことが、どうしたらできるのだろうか。そのあたりが課題だと思う。  
子どもが自分から地域に入っていき場を作ってあげることができるといいのではと思う。  
昔、子ども会の役員をやっていた時に、夏休みに早起き会をしようとなった。5・6年生で子どもの役員を集めて、何がやりたいか聞いた。色々な意見が出たが、結局湘南平までみんなで歩いて帰ってきた。やりたい内容を子どもと一緒に考えて、費用面や安全面を大人がしっかり考える。少しずつでもコロナの中でも、探っていけたらいいと思っている。

○委員

ラジオ体操も大分無くなったところが多い。

○副議長

学校でラジオ体操カードをまだ配っているか。地域ではないが、カードをもらってくる体

験を私の娘はしている。いろいろことを知る機会でもある夏休みに、子どもたちが大人と一緒にやれることが増えていくと、彼らが大きくなったときに、それをその下の世代にも引き継いでいけたら、こんないいサイクルはないと思う。先ほど言っていたように、大人も子どもから学ぶということがあったら、とても素晴らしい。平塚市内でそういうことがたくさん行われていけば、広めていける機会を作っていけたらいいのかなと思う。

#### ○委員

大原小学校で、7月13日に防災キャンプを1泊2日でやったが、2日目に体育館で避難所の運営をやって、そこへ私も呼ばれて、見学や手伝いをした。校長先生は防災推進委員会に小学生を参加させたい。私は大賛成だと思い、その話を防災委員会にしたらここに小学生が入ったら一体どんな話になるのかと、びっくりされてしまった。でもそれはチャレンジだから、ぜひ実現させようよという話をしているが、校長先生とは、具体的な話にはなっていないが、将来的にはそういうことはあり得るだろうと話している。子どもたちが、そういう大人の会議などに入って、体験するのは、ちょっとワクワクする。

#### ○委員

自治会の会議などに子どもが参加するというのは面白いかもしれない。

#### ○副議長

新たな風が吹いてきて楽しいかもしれない。

#### ○委員

前に、似たようなことをやったことがある。子どもたちが、時に突飛なことを言うことがあるが、そこで大人が否定してしまう。その時はあまりうまくいかなかったが、今思うと、それは子どもたちの経験が少ないから自分たちも子どもたちと触れ合う経験も少ない。だから、粘り強く何回か重ねていくうちに、子どもたちも自治会の人が発想がわかるし、こちらも子どもたちの発想がわかるようになる。そうすると、子どもたちも一つの議論のルールが敷かれて、やっていけるんだと思う。一度、土屋三郎の案内をしてもらおうということで、中学生に計画立案から全部任せ、説明も全部してくれた。いろいろなクイズを自分たちで作ったりして、すごく新鮮だった。

だから、子どもたちの考え、発想に大人が近寄っていく努力をしていくと、話し合いもうまくいくんだろうと思う。ただそれには、多少粘り強さが必要。その辺は、自治会の人々の理解と学校側が協力してくれないとどうしようもない。地道なことをしていくことによって達成すべきじゃないかと思う。

#### ○委員

教育力ネットも同様で、コロナ禍の2年間にできなくて、せっかく助成金もらってもお返しするような形になっている。中学生と一緒に何ができるかなって考えるっていうのは面白いのではないかな。

○副議長

何ができる、何をしたい、どんなふうに見えるかなっていうところで、一緒に考えるところがよい。

○委員

我々は子どもに与えるというような発想になってしまうが、一緒に協働していくっていうことことが大事では。特に今は転換期だと思うので、この発想っていうのはすごく面白いと思う。

○副議長

私たち大人の思考を変える時かもしれない。子どもたちといかに一緒に考えてやっていけるようになれるのか。

○副議長

子どもが入ると親御さんも興味が湧いてくる。だから、親世代が地域に目が向いてくれることを期待したい。

○委員

これは民主主義の根幹だと思う。集団自治、住民自治いろいろあるが、子どもたち自身が幼いときから関わる大切ではないかな。

私も反省しなくていけないと思うが、大人と子どもに見えない線引きをしている感じで、近づけない、近づけさせないようにしてしまったところがあるのかもしれない。

今後は人口減少社会、限られてきた会議の中で子どもたちが他人事ではなく、責任を持って決めていくことが大切ではないかな。

子どもたちを含めて皆で議論していくことは、民主主義や住民自治の基本的なことだと認識された。

他人話ではなく、自分たちで作っていくんだという、主体者という意識を涵養する意味ですごくいい方向性になっていると思う。

○副議長

今は何かと学校でさまざまなことを教えて欲しいという要望をしがちだが、子どもの参画のようなことであれば、地域でも子どもたちの地域の学びとして一緒にやることができる

のではないか。

○委員

ある町でこどもの議会を作って、予算を持ち、皆で議論して決めていくことをやっているそう。自ら関わることで、ゆくゆくは政治への関心を持つようになり、投票率が上がることに繋がるのでは。

○副議長

自分が住んでいる地域で幸せに暮らしていくために子どもの頃から参画していくことができればこんな素敵なことはない。

子どもの頃から大人と一緒にさまざまなことに参画することで相手の意見を尊重することを育むことができると思う。

○委員

ある進学校では文化祭や体育祭を全て自分たちで考えて決めているそう。授業も先生が教えるのではなく、自分たちで組み立てて行うそう。

大人がお膳立てしたことでなく、子どもが考えたことに親はとても興味があるだろうと思う。

○委員

私は孫と宿題を一緒にやっている時に、大人は既成概念の中で答えを導こうとしてしまうことに気づかされた。孫が「それでも僕はこう思う」と言った時に、ハッとさせられた。今、皆さんの意見を聞いていた時に、コロナ禍だからこそその子どもたち自らの社会教育、「与える教育から共に考える教育」というのが出てきた。

○副議長

子育てしているとなかなか気づけないことだと思う。子育てしている親が気軽に話し合えるような場があるといいのかなと思う。

○議長

ありがとうございました。議論が広がったが、何となく方向性が見えてきたかと思う。各自、地域の情報を集めていただき、事例等をお話していただければと思う。

---

(3) 次回の会議予定の確認

第3回会議日程 令和4年10月25日(火) 15時から(410会議室)

### 3. その他

事務局から各種社会教育部の事業案内をした。

以 上